

加古川市は、瀬戸内海の播磨灘に面し、県下最大の河川である加古川をはじめとする多くの河川、水路、ため池などの水辺空間に恵まれています。また、市の北部には、播磨中部丘陵県立自然公園の山々が連なり、豊かな自然と都市が調和したまちとして発展してきました。

私たちは、この豊かな自然を次代に継承するため、「ひと・まち・自然を大切にし、ともにささえ はぐくむまちづくり」を基本理念とする加古川市総合基本計画を定め、「うるおいのあるまち」をめざして、取組を進めています。

世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、世界的にようやく落ち着きを取り戻しつつある中で、地球温暖化による気候変動によって引き起こされる大規模自然災害が毎年のように発生しており、私たちの暮らしを大きく脅かしています。そこで、我が国では、地球温暖化を防止し、国民の生命や暮らしを守るため、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、積極的な取組が進められています。

そのような中、本市においても、令和4年2月に2050年二酸化炭素実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。このため、さらなる二酸化炭素排出量の削減や、ごみ減量・資源化の取組を積極的に進めていく第3次加古川市環境基本計画の地球温暖化対策の部分を見直した改訂版を策定しているところです。

今後も、市民や事業者等と行政が協力・連携して、様々な環境施策を推進してまいります。

本書は、令和4年度の環境保全に対する取組状況と、ごみ処理・し尿処理業の現況をまとめたものです。皆様方には、本市の環境問題についてご理解を深めていただき、今後、より一層のご指導を賜りますよう、お願いいたします。

令和5年9月

加古川市長 岡田 康裕